

地域遺伝資源を活用した新野菜の育種による高機能性特産物の開発

1 中核機関・研究総括者
三重県科学技術振興センター
森 利樹

2 研究期間
2003～2005年度（3年間）

3 研究目的

消費者ニーズに対応した地域特産物を開発するため、農業者が有する日野菜カブとハクサイの交配から得られた系統を素材とし、マーケティングリサーチによる育種および製品開発方向の分析を行いながら当該地域での圃場選抜を進める。これにより、三重県伊賀地域の気候風土に適し、機能性色素成分を豊富に含む紫色系ハクサイまたは半結球型の新野菜の育成を行うとともに、それを材料とした加工利用法の開発を行う。

4 研究内容及び実施体制

マーケティングリサーチによる育種および特産物の開発方向の分析（三重県科学技術振興センター、（社）大山田農林業公社）

消費者ニーズに沿った製品価値最大化のための育種目標および特産物開発目標を明確化する。

加工利用法の開発および機能性成分と品質形質に関する選抜法の確立（（独）農業技術研究機構野菜茶業研究所、三重県科学技術振興センター、（社）大山田農林業公社）

育成系統の特徴を活かした加工利用法を開発するとともに、圃場段階で利用可能な高機能性等に関する簡易選抜法を確立する。

圃場選抜と自殖による固定（農業者・奥 隆善、三重県科学技術振興センター）
対象地域の気候風土に適し の育種目標にあう系統を選抜し、選抜株の自殖によって固定を進める。

薬培養による純系の育成と品種化（三重県科学技術振興センター）
純系を作出し、 F_1 品種の育成を試みる。

5 目標とする成果

当該地域の農業生産の安定とともに、地域住民共有の誇りとなる新しい地域特産物を開発することができる。また、特産物開発における体系的取り組みについて、他の特産物開発への波及効果が期待でき、地産地消運動への貢献が期待できる。